

# 潮だまり

大渡浜海岸は、岩肌がごつごつした海岸が広がっており、干潮時には潮だまりが発生します。

潮が満ちているときのつながりや、干潮時の保有性を、岩を見立てたコンクリートブロックや、大屋根、曲線を用いた外構を利用して表現しました。

この、潮の満ち引きによって生まれる潮だまり空間を、公衆トイレと休憩所に連続させ利用者の、新たなたまり空間を生み出します。

潮だまりのように、利用客が多いときはつながりを、少ないときは、保有性を生み出します。



図1 潮だまりイメージ①



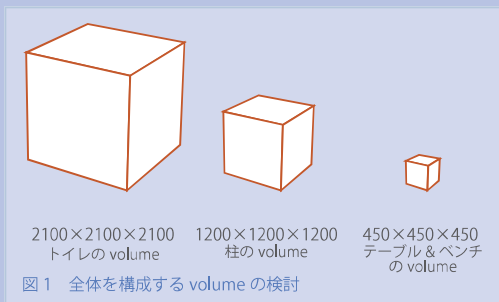
図2 潮だまりイメージ②



図3 潮だまりイメージ③

## ○潮だまりの作り方

### ・3つのvolumeのボリュームの検討



トイレを構成する1辺2100mmのvolume  
柱を構成する1辺1200mmのvolume  
テーブルとベンチを構成する450mmのvolume

3つを用意し、切り込みをいれ、潮だまりができる岩を表現します。

### ・柱の検討



図4に示した、4種類のコンクリートブロックをランダムに積み上げ、6種類の柱を構成し、配置することで、大渡浜海岸の岩肌を連続させます。



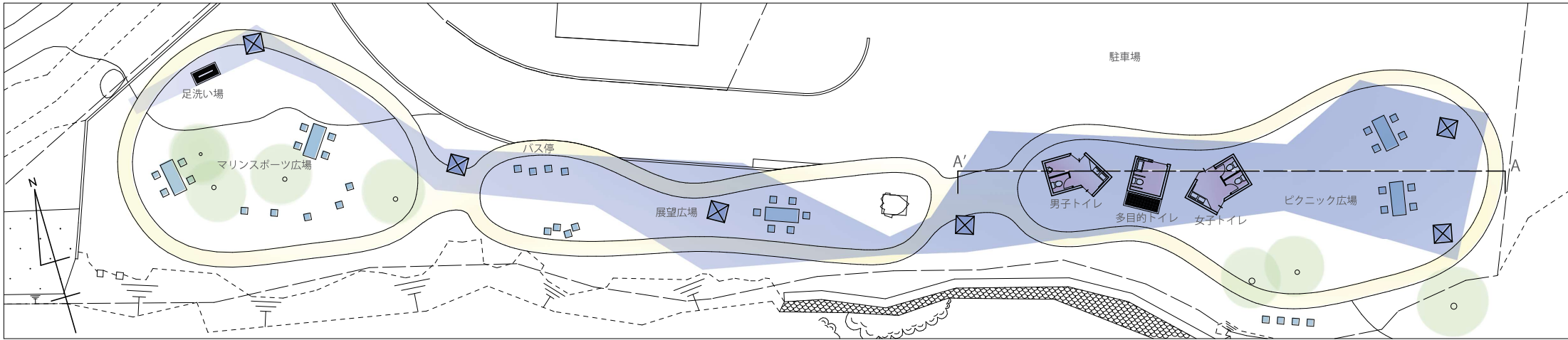
敷地全体に、西から、マリンスポーツ広場、展望広場、ピクニック広場の計3つの広場を作りました。

展望広場は、屋根下に引き込まれるような形状としました。ピクニック広場は、子供たちが自由に遊び回れる広さとなっています。

マリンスポーツ広場は、大屋根の範囲が小さく、海から上がった利用者が日向で体を温められます。

外構道路の緩やかな曲線と、敷地全体にかかる大屋根は、人の賑わいの密度に伴って、潮の満ち引きのように空間を繋げます。

### ○平面計画



S=1/250  
0 2.5 6.25 11.25(m)

### ○トイレ詳細

トイレは、利用者が安心して利用できる見通しは良く、休憩所側からは視線を遮る配置となっています。

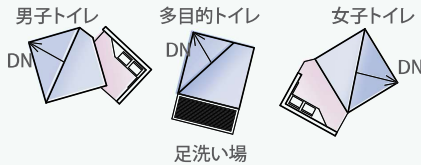
手洗い場は、便所側とは異なり、屋根を設けていません。

大屋根に覆われることで、気軽に利用できる明るい空間になります。

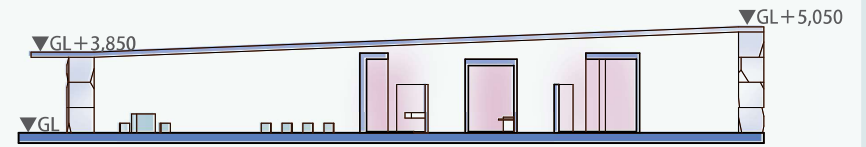
さらに、北側駐車場方向に屋根を欠き込み、歩行者への圧迫感を和らげました。

壁にも、柱の形状と同様に切り込みを入れ、個室便所の入口を隠しました。

休憩所やピクニック広場での人々のたまりと共生できます。

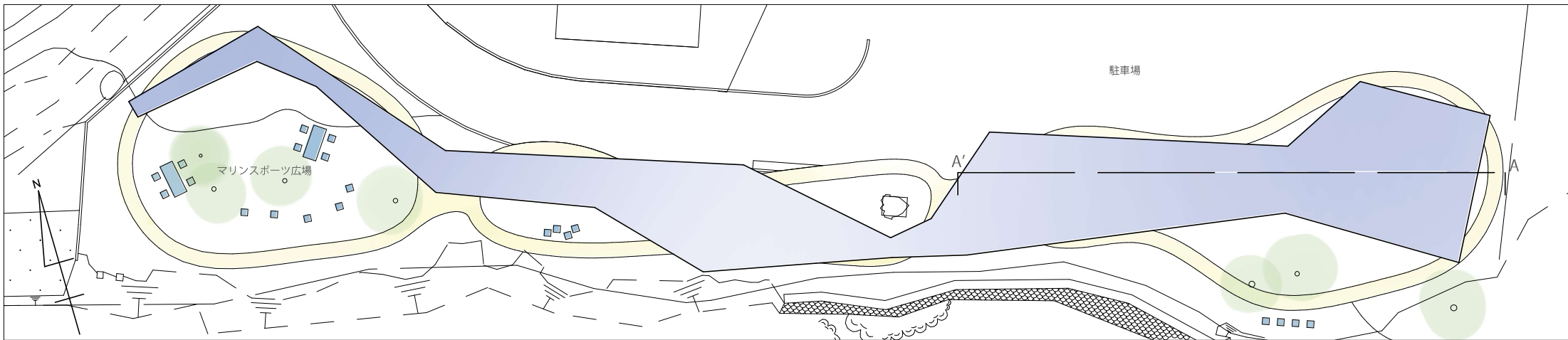


S=1/200  
0 0.8 2.4 4.8(m)



1/250  
0 2.5 6.25 11.25(m)

### ○配置計画



S=1/250  
0 2.5 6.25 11.25(m)